

西光寺だより

第二五五号 令和五年 七月一日発行

■今月のカレンダー■

正しいものに遇って 正しくない自分を 知らされている

先日、住職である長男と一杯飲んでいる時のことです。話が得度修礼（僧侶になるための得度式を受けるにあたり、本願寺西山別院において行う十日間の合宿研修）のことにになり、「本願寺で『正信偈』の唱え方を習ったら、お父さんの唱え癖がよくわかった」と笑います。

そうです。私もついぶん前に本願寺で唱え方を習ったのですが、長年自分だけで唱えていると、自分流の癖がついてしまっていることに気が付かずになっていたのです。時にはCDなどでお手本を聞いて自分の唱え癖を確認しないといけないなあと反省しきりです。

反省する中で、次のような相田みつをさんの言葉を思い浮かべました。

そんな とくか 人間のものさし

うそか まことか 佛さまのものさし

『おかげさん』ダイヤモンド社

私は生まれてから今日まで、両親をはじめ、近隣の方々、学校の先生、一緒に遊んだ友達、僧侶としてお付き合いのある先輩や後輩などの影響を受けながら、またテレビ、ラジオ、新聞などの、多くのメディアから流される情報に囲まれて生きてきました。

その中で、自分なりの価値観や社会の常識などを自分の「ものさし」として身につけ、そして自分の「ものさし」を間違いないも

の、正しいものと思いついて入っています。しかも、本当に正しいのかという点を点検することもほとんどありません。

『正信偈』には、自分のものさしほど正しいものはないと思いつくことを憍慢（おごり・たかぶり）、その心で人や社会の出来事を判断していくことを邪見（よこしま・はからい）と示されています。

この憍慢と邪見でつくられた「ものさし」は、人と接するときや社会の出来事を見るときに活躍します。

人と接するときには、その人は自分にとって都合のいい人か、良くない人か、好きか嫌いか、付き合って得か損かをはかります。社会の出来事も同様に自分にとって好ましいのか、そうでないかをはかります。

そのうえ、このものさしの目盛りは、その幅でコロコロ変わるので、自分にとって都合のいい人を見るときには寛大な目盛りとなり、少々のことは許すことができます。

反対に都合の良い人をはかるときには厳しい目盛りとなり、ちよつとしたことも許すことができずに、叱責するということになります。本来「ものさし」の目盛りの幅はどのようなときにも一定でなければ、「ものさし」としての役割を果たすことはできないのですが……。

常にお聴聞を重ね、阿弥陀さまの大慈悲心に学ぶということは、阿弥陀さまの「ものさし」に対して自分の「ものさし」がうそかまことかと問うことであり、つまりは正しくない自分を知らされることでもあります。

（法語カレンダー 解説書より）



◆先月の報告◆

六月七日（水）茨木東組聖跡巡拝バス旅行が約3年ぶりに行われました。

久しぶりのバス旅行、60名のご参加で、西光寺からは4人の方々と、バス2台、名古屋方面1日研修旅行に行つて参りました。

名古屋別院の本堂で輪番（代表の方）のお話をうかがい、お昼はひつまぶし御膳をいただき、その後、徳川美術館を見学いたしました。充実した楽しい1日をご参加いただいたご門徒の皆さんと共に過ごしたことであります。

皆さん、お疲れ様でした、そしてありがとうございました。



名古屋別院が空襲にあい、焼失した中、戦火を免れた鐘楼は2017年に名古屋市有形文化財に指定されています。

すばらしくろうろうとしたその姿は力強く、感慨深いものであります。



◆七・八月の行事◆

・八月 十五日（火）

孟蘭盆会法要

午後六時～ 仏説阿弥陀経

西光寺本堂

※マスク着用で御参詣ください。

※体調にご不安な方はご遠慮ください。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>